

大津町議会との意見交換会 交通・観光面での政策連携に期待

5月17日(南阿蘇村役場 庁議室)

この意見交換会は今回が初めての試みで、大津町議会からの申し出で実現した。大津町議会からは、経済建設常任委員会（永田和彦委員長、他委員4名）と桐原則雄議長、本議会は、総務常任委員会5名と荒牧俊一議長が出席した。

冒頭、本村から、熊本地震直後の避難所、その後の仮設住宅等の対応で、大津町にお世話になったお礼を述べた。その後、両町村の震災からの復旧・復興状況を両委員長が報告した。

隣町ではあるが、お互いの自治体が抱える課題等、知らない事が多かった。課題だけでなく、それぞれの強みや違いも理解が深まり、大変有意義だった。

特に、交通と観光面では、南阿蘇鉄道やJR豊肥線の復旧状況、インバウンド対策に、意見・議論が集中。熊本空港からの外国人観光客の誘致に、大津町も関心が高い事、観光面での活性化に、本村との連携に期待している事も分かった。



「あそ望の郷くぎの」は、景観・施設共に評価が高く、羨ましがられた。

今後の復興や地域再生は、インフラ復旧のように、国や県に頼るのではなく、村主導で進めなければならない。更に、人口減少・少子高齢化が進展する時代背景も鑑み、近隣自治体との政策連携は避けて通れない。生き残りを賭けて、各自治体の真価が問われるだろう。

今回の意見交換会を皮切りに、更に議会としても交流を重ねながら、両町村の利益につながる政策実現を議会提案で目指していく事でも意見が一致した。



広域議会議長に後藤征昭議員就任

「本年4月に行われました統一地方選挙後、阿蘇広域行政事務組合議長が不在となっておりますが、6月3日開会の同組合臨時会において推挙いただき就任いたしました。任期は、同組合同規約により、本村議員任期である令和3年3月までとなります。

阿蘇広域行政事務組合は、昭和63年4月に発足以来、社会生活圏の広域化に対応し、住民が快適な環境のもとで安心して生活できるよう、広域

的観点から社会資本の整備を進めて参りました。

これからも環境衛生、消防救急、厚生福祉の3つを柱としたバランスのとれた広域行政機構として、本村をはじめ、阿蘇圏域の住民の方々の生命と財産を守り、豊かで住みよい地域づくりを目指すため、執行機関と手を携え、よりよい議会運営に努めて参ります。

任期中はその職責を全力で全うする所存でございますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。」